



DHCP の設定

この章では、Cisco NX-OS デバイスで Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を設定する手順について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [DHCP クライアントについて](#) (1 ページ)
- [DHCP の注意事項と制約事項](#) (1 ページ)
- [DHCP クライアントの有効化](#) (2 ページ)
- [DHCP クライアントの設定例](#) (3 ページ)

DHCP クライアントについて

DHCP クライアント機能によって、管理ポートに IPv4 アドレスを構成できます。

DHCP の注意事項と制約事項

DHCP 設定時の注意事項と制約事項は次のとおりです。

- DHCP クライアントのみがサポートされます。
- DHCPv6 (IPv6) はサポートされません。
- DHCP クライアントでは、Power On Auto Provisioning (POAP) を使用できます。POAP の制約事項：
 - POAP は、管理ポートでのみサポートされています。
 - IPv6 がサポートされていない。

POAP の詳細については、『[基礎ガイド](#)』を参照してください。

DHCP クライアントの有効化

DHCP クライアント機能によって、インターフェイスに IPv4 アドレスを構成できます。



(注) DHCP クライアントは DHCP リレー プロセスに依存しないため、**feature dhcp** コマンドを有効にする必要はありません。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 2	interface mgmt 0 例： <pre>switch(config)# interface mgmt 0 switch(config-if)#</pre>	・インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始し、DHCP クライアント機能を有効にするインターフェイスとして管理インターフェイスを指定します。
ステップ 3	[no] {ip} address dhcp 例： <pre>switch(config-if)# ip address dhcp</pre>	インターフェイスに IPv4 アドレスを割り当てます。 IP を削除するには、このコマンドの no 形式を使用します。
ステップ 4	(任意) show running-config interface mgmt 0 コマンドを実行します。	実行コンフィギュレーションのインターフェイスに割り当てられた IPv4 アドレスを表示します。
ステップ 5	(任意) copy running-config startup-config 例： <pre>switch(config-if)# copy running-config startup-config</pre>	実行中の構成を、スタートアップ構成にコピーします。 {ip} address dhcp コマンドだけが保持されます。割り当てられた IP アドレスは、実行コンフィギュレーションに表示されても保存されません。

DHCP クライアントの設定例

次の例は、 DHCPクライアント機能を使用する方法を示しています。

```
switch# configure terminal
switch(config)# interface mgmt 0
switch(config-if)# no shutdown
switch(config-if)# ip address dhcp
switch(config-if)# show running-config interface vlan 7
```

DHCP クライアントの設定例

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。